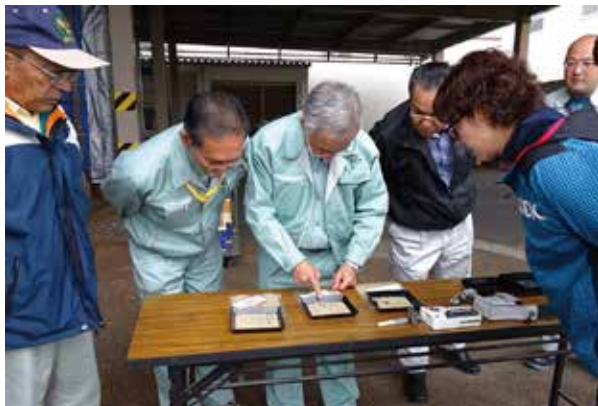


2017年
クイーン倶楽部だより 11月号
第177号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447
URL <http://www.eco-rice.jp/>
E-mail office@eco-rice.jp

検査員の目合わせ会実施 米の鑑定眼をチェック、山田錦検査に備えました



コシヒカリの検査も落ち着いた10月半ば、地域の検査員が集まり、これから出荷が本格化する酒米「山田錦」の検査に向けて目合わせ会を行いました。

低温が続いたせいもあり、今年は全体的にお米の仕上がりが遅れ気味。山田錦も昨年と比べて半月ほど稲刈りが遅れていました。サンプル米をカルトン(検査に使う黒い角皿)に入れ、米粒の充実度や被害の程度(虫食いなど)をチェック、検査本番に備えました。



人参ジュース販売中止のお知らせ

「豪雪津南高原産人参ジュース」について、天候不順等により原料人参の確保が難しくなったため、一時的に販売を中止させていただきます。
再開については11月の収穫後、雪室での熟成を行った後ジュースに加工いたしますので、来年3月頃にはお届け再開できる予定です。
皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げます。



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

ドクタ "N" の 私にも一言言わせて

その31

※ドクタ…英語で博士の意味

抗がん剤は本当に禁なのか？

知り合いの内科部長の女医さんから電話で相談があった。乳がん摘出後に抗がん剤の投与を受けたが、物凄く不調が襲い、死の恐怖を感じるといつことであった。

術後経過は順調だったが点滴後三日目に突然に猛烈に気分不調が襲い、動けなくなった。髪の毛は引く張ると束になって抜けた。血液検査で白血球が480個まで落ちてしまった。今後点滴は続行すべきかとアドバイスを求めた。私は生命の危険水準まであるので抗がん剤は即刻中止を告げた。

その後、白血球が正常に戻ったので二回目の点滴をしましよ、と告げられたが断ったと報告があった。素人には当然に断るべき事態と思われるが、医師間では議論があり勇氣ある決断となる。抗がん剤で髪の毛がごそっと抜けることは常識、白血球数減少は計算内で、副作用とは思われていないからである。

副作用を乗り越えて克服が待っていると医師には思えるが、再発万が一用の点滴なのに命を落としたり点滴はやり過ぎである。

現役医師に恐怖の抗がん剤は明らかに毒である。毒物は一夜して人を無力にする。毒でがんのみならず正常組織をも犯すことは薬とは言わない。

薬とは「お陰様で楽になりました」というのが薬の基本である、毒物はまた発がん性を有するといえる。専門医はものすごい副作用を当然視し、発がん性の疑問を感じず、患者に無理強いしていることは不可解である。

近年、抗がん剤に疑問視し、免疫療法や糖質制限食、熱攻め療法など民間療法を選択する人が徐々に拡大している。医師も客観的に民間治療を見てみる必要がある。マニュアル通りに点滴を行い急死を招いたら、免責されることとはないと肝に銘ずるべきである。